

受難週説教「主の十字架と死」

姫路あけぼの教会 廣田守男

「さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ。』と叫ばれた。こは、『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。』という意味である。」

(マタイの福音書 27章 32～56節)

マタイの福音書 27章は内容的に6つに分解されます。① 1～2節、ピラトに引き渡されたイエス、② 3～10節、ユダの死、③ 11～14節、ピラトの前のイエス、④ 15～26節、死の宣告、⑤ 27～31節、兵士たちのあざけり、⑥ 32～44節、十字架、⑦ 45～56節、イエスの死、⑧ 57～61節、埋葬、⑨ 62～66節、墓の番兵、です。今日は特に⑥⑦の部分を通して導きを受けましょう。平衡記事はマルコ 15章 21節～41節、ルカ 23章 26節～49節、ヨハネ 19章 17節～30節、です。ご覧下さい。

本日は「棕櫚の主日」です。今週は私たちのために苦難を受けて下さった主イエス・キリスト様の受難週です。主イエス様は「ろばの子」に乗ってエルサレムに入場されました。群衆は上着を敷き、棕櫚の枝を振りながら「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。」と歌声を上げて主を迎えました。彼らはキリストをこの世の解放者として迎えました。主イエス様は自ら十字架で死ぬことを覚悟しての入場で、この世のものでない御国をもたらすための決意を込めたものでした。この一週間、お互いにお言葉に聴いて主イエス・キリスト様のみ足の跡を黙想しましょう。そして感謝と喜びをもって復活の朝を迎えさせていただきましょう。

①十字架を背負ったクレネのシモン、後に子どもと妻が救われる。最初にイエスの十字架を担った人。②イエスをののしる人々。徹底的にあざけられたイエス。③イエスの十字架の苦しみ～神より徹底的に見捨てられる～。神様が御顔を隠された最暗黒。④ローマの兵士の告白。最初の信仰告白。⑤イエスの十字架の下にいる婦人たち。ガリラヤからついて来た婦人たち。弟子たちのいない現実、等を教えられます。

さて私たちは主イエス様の十字架の前に立つ時、いかなる態度をもって主イエス様を見上げているのでしょうか。ただ単に眺めているのか、ののしるのか、自分の罪のためであると悔い改めるのか、主イエスの愛に応えようとするのか。それぞれ、主の愛に心からの応答をするものでありたい。